



中国がわかるシリーズ 32 唐宋革命(前)

ライフネット生命保険株式会社
代表取締役会長兼 CEO、出口 治明氏

宋の 300 年は、一言で言えば、中国で複数国家が併存した時代でした。キタイ、大夏、大金と宋が、渲淵システムという知恵によって、概ね、平和共存していたのです。この宋の時代に、中国は大きく変化しました。

江南の経済力が圧倒的となり、華北は江南の食料に依存するようになりました。中原に鹿を追う時代は終わったのです。江南では、ユーラシアの気候の温暖化を受け、ベトナムからもたらされた早稲(長粒の占城米)によって、米と麦の 2 毛作が可能となり、埋め立てなどによる新田開発も進んで、農業革命が生じました(その結果、日本の稲と同じ以前からの短粒米は駆逐されました)。漢や隋唐の盛期に 5~6 千万人で推移していた中国の人口は、1 億人近くまで膨れ上がったのです。

また、飲茶の習慣が広まり、それに伴って陶磁器産業も飛躍的な発展を遂げました。中国では古くから磁州で磁器が生まれ、景德鎮では既に漢代から窯が開かれていましたが、景德鎮の名が冠せられたのは、宋初の時代からです(1004~1007 年の元号が景德でした)。

宋の白磁や青磁は、輸出品としても珍重されることになりました(黒磁の天目茶碗も素晴らしいですが)。なお、農業革命や陶磁器産業の発展の陰には、石炭とコークスを活用する火力革命があり、製鉄業の発展がありました。因みに、磁器を表す英語のポーセリンは、光沢のある子安貝を意味するイタリア語が語源です)。